

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	4-4-3	3-2-3	事業名	大通バスセンター耐震化・バリアフリー化等改修事業			
担当	市)総合交通計画部交通企画課 鈴木 211-2492						
全体計画							
事業内容	大通バスセンターは、耐震改修促進法における多数の者が利用する特定建築物に該当し、維持管理に必要な安全性能を確保する必要があることから耐震改修を行う。また、当該施設は札幌市交通バリアフリー特定事業計画における特定旅客施設に位置付けられていることからバリアフリー化を実施する。さらに、都心部の駐輪場不足に対応するため、建物の未活用部分を駐輪場に転用する。 【施設概要】 名称:大通バスセンタービル 所在地:札幌市中央区南1条東1丁目・東2丁目 構造:鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上1階地下2階 延床面積:6,547.66㎡(道路占用面積を含むと10,878.42㎡) その他:民間事業者と区分所有			<年度別の事業内容>			
				大通バスセンター耐震化 平成19年度 区分所有の相手先との協議 平成20年度 耐震診断・改修設計及び工事 平成21年度 耐震改修工事 大通バスセンターバリアフリー化 平成21年度 エレベーター・視覚障がい者用ブロック設置 平成22年度 多目的トイレ・視覚障がい者用ブロック設置 大通バスセンター用途転用 平成20年度 改修			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	大通バスセンター耐震化 区分所有の相手先と耐震改修に向けた協議を実施(予算執行なし)			大通バスセンター耐震化 46,000千円(事務費を含む) ・地下部分に係る耐震診断 3,922千円 ・地上部分に係る耐震改修(負担金支出) 42,000千円 大通バスセンター用途転用 16,000千円(事務費を含む) ・設計 1,961千円 ・駐輪場整備 13,725千円			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
大通バスセンター耐震化		-	協議	地上部完了 地下部診断	地下部完了	/	完了 (21年度)
大通バスセンターバリアフリー化		-	-	-	整備	整備	完了
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
市民との連携、市民参加 企業等との連携・協働 [資金協力]区分所有の相手先と共同で耐震改修を実施することにより、事業の効率化が図られる。 [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	4-4-3	3-2-3		事業名	大通バスセンター耐震化・バリアフリー化等改修事業	
評価(成果)				課題		
耐震改修に取り組むことによって、多くの市民が当該施設を安心して快適に利用できるようになる。				区分所有の相手先と調整しながら効率的に事業を進める。耐震化、バリアフリー化及び用途転用を一体的に取り組むことにより、工期の短縮及び経費の節減等を図る。		
今後の事業の予定・方向						
築33年を超える施設・設備の老朽化及びバス車両の高さの問題等を踏まえ、施設の今後の方向性を見据えて必要な維持修繕を効率的かつ計画的に行っていく必要がある。						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	0	105,000	139,000	56,000	300,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市債 その他 一般財源	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
予算	事業費	0	62,000	-	-	62,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債 その他 一般財源	0 0 0	0 0 0			0 0 62,000
実績	事業費	0	-	-	-	0
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債 その他 一般財源	0 0 0				0 0 0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				20.7%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体) 特になし [19年度] 特になし [20年度] 駐輪場整備の内容を必要最小限に抑えた。						